議会外でも幅広い活動

悲願の交番設置に全力投球

市南部への交番設置

小川一成県議は去る六月十四日、橋本昌知事と永井和夫県警本部長に対し、守谷市南部地域への交番設置を求めた「交番設置要望書」を、守谷市民一万九千二百八十人の署名簿を添えて提出した。

利根川を挟んで千葉県柏市と隣接する守谷市では、みずき野や美園、けやき台、松ケ丘、ひがし野、久保ケ丘、御所ケ丘、松前台、薬師台など大型住宅団地の完成とともに、交通事故をはじめ空き巣や引ったくり、居直り強盗などが多発し、市民はさまざまな事件や事故の増加に不安を抱いているのが現状だ。

そのため、昨年十二月に制定された「守谷市安全・安心まちづくり条例」に基づき、市防犯連絡員協議会や市セーフティマイタウンチーム、取手地区交通安全協会守谷支部の会員をはじめ、行政、市民、企業などが一体となって防犯活動を展開している。

しかし、同市では、平成十七年度開業を目標につくばエクスプレスの整備が進められているうえ、都市整備公団がけやき台四丁目に住宅と商業施設を一体化した、ユニバーサルデザインによる複合団地（ユニバーサルシティ守谷）の建設を進めており、そこに西友が平成十五年三月オープン予定で大型店舗「西友楽市守谷」の出店を決めている。

これらの開業やオープンに伴い、同市は、茨城県の新たな玄関口としての発展が期待される半面、他県からの人口流入が必至で、人口の増加に伴う事件・事故の多発に拍車がかかるものと懸念されているとして、交番設置の要望書の提出となった。

要望書は「これら（防犯活動）にも限界があり、やはり警察力に頼らざるを得ません。その地域に交番があるということが、犯罪防止には一番効果的ではないでしょうか。安心して生活のできる環境の構築のため是非、守谷市南部地域への交番の設置を切に要望するものです」と訴えた。

特に、今回の要望書提出で小川県議を驚かせたのは、二万人近い署名がゴールデンウイーク明けの五月七日から五月三十一日までの三週間という短期間の間に集まったことで、小川県議は「それだけ市民が事件や事故の多発に不安を募らせている証（あかし）」として、知事らに強く実現を求めた。

交番設置の要望書を橋本知事に提出する小川県議ら

立体化工事、来年度にも着工へ

乙子交差点の渋滞解消

来年度にも立体化工事が着工する見通しとなった乙子交差点と常総線の踏切

本県の新たな玄関口として発展する守谷市では、大動脈である国道294号の四車線化工事が急ピッチで進められているが、懸案の乙子交差点の立体化工事が来年度にも着工する見通しとなった。

この問題は、小川県議が平成七年の第一回定例会で執行部に早期実現を訴え、さらに今年三月の第一回定例会でも再度取り上げ、早期着工を迫ったのに対し、当時の土木部長は「今後とも、残る用地取得に努め、早期に立体化工事に着手できるよう事業の推進を図る」と答弁。早期着工に前向きな答弁を引き出し、実現に向けて大きく動き出した。

小川県議は懸案事業に見通しがついたことについて、「地元の協力と市、県が非常に前向きに取り組み、用地を一〇〇％近く取得したことで、早期立体化に弾みがついた。今後は早期実現に向けて努力していきたい」と話している。

旅の安全を祈るパシーセレモニーは、小川県議ら一行を大いに感動させた

守谷市民らがラオス訪問

青年海外協力隊員を支援

スタディ　ツアー

東南アジアのラオスと交流している茨城県青年海外協力隊を育てる会は今春、小川県議を団長とする二十一人のミッションを、首都ビエンチャンとメコン川上流の古都「ルアンプラバン」（以下ルアン）に派遣した。

青年海外協力隊は、国際協力事業団が昭和四十年にスタートさせた事業で、アジアやアフリカなどの開発途上国の人々のために、自分の持っている技術や経験を生かしてみたいという強い意欲を持つ青年が、世界の多くの開発途上国へ派遣されている。その数は世界七十数カ国に、延べ二万人以上もの若者が派遣されており、本県からは三百五十人以上が活躍している。

この育てる会は、開発途上国で頑張ろうという若者の発掘や支援などを目的に活動しており、本県では六年前に発足。以来、育てる会レベルでも国際交流活動を展開しており、特にラオスとは相互交流を続けている。

今回ラオスを訪問したのは、いわゆる「協力隊予備軍」である地域の青少年を含む総勢二十一人で、年齢は十七歳から七十九歳までと幅広く、職業も高校生や大学生、英語教師、元農業改良普及所長、伝統工芸師夫妻、市役所職員など多彩で、守谷市民が三分の二を占めた。

青少年が同行したのが今回の大きな特徴で、それは育てる会の設立五周年記念事業の一環として、昨秋に世界遺産に登録された古都ルアンの青少年ら十一人を招待したのがきっかけとなった。一行は守谷市と結城市の小・中・高校などで多彩な交流を行い、同時に、地域の家庭にホームステイをして友情も深めた。

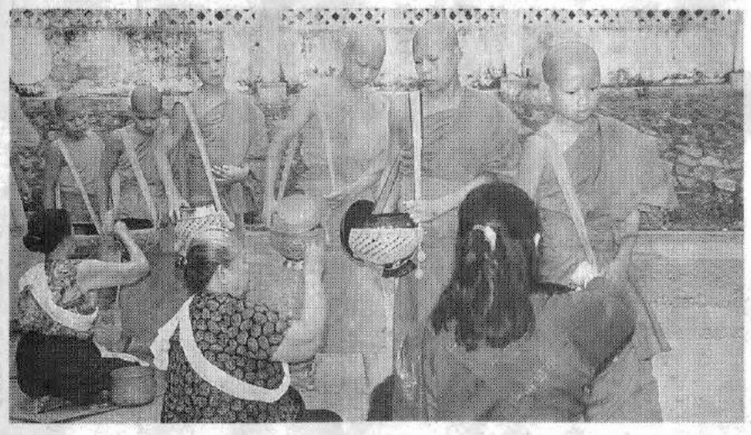
そうしたことから、今年の交流事業では、日本側からも青少年を含むミッションの派遣を検討していたところ、現地の青少年たちから「今回はぜひわれわれの家にも来てください」との要請があり、ラオスでのホームステイも実現した。

一行は三月二十四日に成田を出発し、三十一日に戻る七泊八日の日程でラオスを訪問した。二日目の二十五日に日本大使館を表敬訪問したのを皮切りに、博物館や医療現場などで活動する青年海外協力隊員の現場を視察したり、隊員と交流したほか、現地青少年との交流などに忙しく動き回った。

ホームステイは二十六日から二十七日にかけてルアンで行われた。そこでは有志が地元の各家庭に招かれ、家族や近所の人々と楽しい一夜を過ごしたりして友情を深め合った。

小川県議をはじめ一行が最も感動したのは、旅の安全などを願って地元の人たちが祈ってくれたパシーセレモニーという儀式だった。村の長老が人の輪の中心に座り、祈りを捧げた後、一行の一人ひとりの手首に、祈りを込めながら、たこ糸のようなヒモを幾重にも巻き付けてくれたが、それが大人から子供まで参会者一人ひとりが巻き付けてくれるのには驚いたり、感動したという。

小川県議は、今回の訪問を「ラオスは最貧国と言われているが、子供たちの目が美しく輝いていたのには驚いた。物質的に貧しくとも、子供たちの心の豊かさを感じた。何が幸せか、改めて心に問いかける旅だった」と振り返っていた。



早朝の托鉢光景

小川県議の２期８年間の一般質問項目

小川県議は二期八年近い中で、一般質問に六回登壇し、地元地域の県政課題をはじめ県政全般にわたって論戦を展開した。以下、争点に取り上げた質問項目を紹介する。

●平成七年第一回定例会
一、震災対策について
①阪神・淡路大震災の受け止め方と今後の防災対策への取り組み
②情報伝達体制、通信手段の確保
③総合防災訓練
④広域避難所等の現状と整備計画
二、常磐新線建設に係わる関係市町村への財政支援について
三、アーカス構想について
これからの事業展開
四、新しい農業担い手の確保・育成対策について
五、国道294号線の整備と常総ふれあい道路の格上げについて
①国道294号線の整備状況
②国道294号線と関東鉄道乙子踏切の立体化
③常総ふれあい道路の県道への格上げ
六、取手市への旅券窓口の設置について
七、新大利根有料道路の無料化について

●平成九年第一回定例会
一、行政とNPOとのあり方について
①NPOの実態と評価
②NPOに対する支援のあり方
二、常磐新線関連事業について
①五年遅れ等による本県の見直しの具体的内容
②守谷町をはじめ関係市町村への行財政支援
③つくば地区の事業主体
三、県立医療大学の大学院設置について
四、残土条例の制定について
五、警察行政について
①交通安全対策
②駐在所統廃合の基本的な考え方と廃止駐在所の効率的活用

●平成十年第一回定例会
一、新年度予算と行財政改革について
①時のアセスメント
②福祉部門への投資による経済効果
二、アーカス構想の推進について
三、常磐新線について
①守谷駅舎の構造変更
②沿線開発と財政負担
③都市軸道路の進捗と環境対策
四、障害児教育について
県南西地域への養護学校の整備
五、学校教育について
①所持品検査
②閉かれた学校づくり
六、新大利根橋有料道路の早期無料化について
七、守谷町大木流作地区の移転問題について

●平成十一年第一回定例会
一、県政運営について
①今後の財政運営
②公共事業の評価
二、アーカス構想パイロット事業について
三、常磐新線について
①常磐新線利根川橋梁の整備
②守谷駅周辺地区整備の進捗と町への財政支援
四、コンピュータ西暦二〇〇〇年問題について
五、県立医療大学の役割について
六、教育行政について
①学級崩壊と家庭教育
②今学校に求められるもの
七、警察行政について
①交通安全対策の推進
②ハイテク犯罪への対応

●平成十二年第四回定例会
一、新千年紀を迎えるに当たっての知事の人生哲学と県民へのメッセージについて
二、地方分権時代におけることばの行政改革について
三、発生主義会計の導入について
四、常磐新線について
①常磐新線開業に向けての現状と今後の見通し
②魅力ある街の顔づくりのための駅舎・駅前広場のあり方
五、教育問題について
①教育改革を踏まえた本県教育の基本的条件整備
②青年海外協力隊の事業を活用した教員の人材育成
六、警察問題について
①公安委員会の今後のあり方
②活力ある警察組織の確立

●平成十四年第一回定例会
一、知事が考える危機の時代のリーダー像について
二、「二十一世紀を生きる若者に望むこと」について
三、外部監査の結果への対応について
四、税収確保の見通しについて
五、ワールドカップの開催準備について
六、つくばエクスプレスの整備について
七、道路行政について
①都市軸道路利根川橋梁の整備見通し
②国道294号乙子交差点立体化の推進
八、警察行政について
①本部長の警察運営における哲学
②留置場の不足解消
③分離信号の整備

生活道路2橋同時の「有料」に配慮

二月二十六日から三月二十二日まで開かれた第一回定例県議会での論戦を紹介している〝ズームアップ県議会〟の三回目は、三月五日の一般質問初日に登壇した自民党の小川一成氏（守谷市選出）にスポットを当てた。現在二期目の小川氏は、土木・農林水産・文教治安各副委員長などを歴任し、最終日の議会人事で農林水産委員長に抜てきされた中堅とあって、九人が立った一般質問のトップバッターを務めた。今回は論戦の争点に、大別して①知事が考える危機の時代のリーダー像②「二十一世紀を生きる若者に望むこと」③外部監査の結果への対応④税収確保の見通し⑤ワールドカップの開催準備⑥つくばエクスプレスの整備⑦道路行政⑧警察行政――の八項目を据え、橋本昌知事ら執行部の見解などをただした。この中で、都市軸道路の利根川橋梁（りょう）の整備見通しについて、島田健一土木部長は「有料道路も視野に入れ、事業方策の検討を進め、早期の具体化を目指していきたい」と答弁。小川氏はこれに対し、二つの橋が同時に有料道路になるのは問題と再質問を展開、同部長から配慮する旨の答弁を引き出した。ここでは、①、②、⑦、⑧をめぐる主な質疑応答を収録した。

県議会 ズームアップ 第1回定例会

「強いリーダーシップを」小川氏 「胆識備えることが重要」知事

危機の時代のリーダー像

小川　今回の知事への質問に当たり、私は私なりに高い視点からお伺いしますので、知事も格調の高い答弁をお願いします。

まず、初めに、知事が考える危機の時代のリーダー像についてお伺いします。

知事は、三百万県民のリーダーであり、この困難な時代に県民をリードし、未来を切り開くという重責を担っています。そこで、危機の時代のリーダー像とは何かということを改めて問い直すべく、所見を伺うものです。

リーダーに、権力と地位が与えられているのはなぜか。それは、民の声を聞きつつも前例にとらわれず、政策を決断し、危機に対処するからである。政治も外交戦略も、少ない投資で多くの結果を得ようということだから、こうした決断は善良な小市民にはできない。さらに言えば、ワルでないとできない、という考え方があります。

ところが、日本の政策担当者には、善良でいい人たちが多い。また、日本では、結果より動機、手段の正しさが重要視されています。古代ローマの力ニサルは、歴史上どれほど悪い事例とされていることでも、それが始められた動機は善意によるものだったと言っています。一方、ローマで活躍中の作家、塩野七生は、善意がいい結果を生むとは限らない、むしろ、目的のためには手段を選ばぬマキャベリズムの思想、すなわち大きな善のための大きな悪が必要な時代かもしれない、と言っています。要するに、国民を天国に行かせるためには、指導者自身は地獄に行くようなこともあえてしなければ、人々の生活は守ることはできない。これに対して、大したことがない指導者は、自分が天国に行くことばかり考え、結果として民衆を地獄に送っているのではないでしょうか。

二十一世紀の今、わが国は、高度な工業社会の成熟点に達し、時代は大きな屈曲点を迎えています。景気、雇用の悪化への対応、一日も早い経済活力の再生、聖域なき構造改革の推進などの課題には、新たな時代をつくる意気込みを持って取り組まなければなりません。本県もまた、しかりです。危機に際して、失敗から学ぶか学ばないか。個人も県も国も、そこで勝負が決まるのではないでしょうか。時代の変革期であるからこそ、トップが泥をかぶってでも、これだけはやり遂げるという強いリーダーシップが必要と思います。

そこで、知事の目指すリーダー像についてご所見をお伺いします。

橋本知事　一昨年十二月の予算特別委員会で、二十一世紀のリーダー像についてご質問をいただき、世界的な広い視野や先見性を持つと同時に、問題点を的確に見い出せる能力、そして、その問題点について速やかに対応策を決定し、実行していく能力、そういったものが必要ではないかとお答えしたところです。また、合わせて、県民に夢を与えることや、県民の意見に耳を傾けることが大切である旨も申し上げました。

しかし、危機の時代のリーダー像となりますと、少し異なる要素が必要ではないかなと考えています。今申し上げました要件に加え、まず、人をぐいぐい引っ張っていける強力なリーダーシップが不可欠ですし、それに加えて、安岡正篤先生の言う「胆識」といったものを備えていることが重要ではないかと考えています。胆力の「胆」という字に知識の「識」という字です。いろいろな意見があっても、右往左往しないで正しいと判断したことをやり遂げる力、すなわち胆力、度量といったものが大切であると考えています。ある人は、胆識とは、ベストと判断したものを恐れず憶せず実行に移す力ということになるであろうと言っています。

今日の状況を見ますと、経済情勢が厳しいだけでなく、価値観も実に多様化しています。県民の意見も千差万別です。声が大きい意見に惑わされることなく、県民にとって本当に必要なものをしっかりと判断し、ワルはともかく、あらゆる工夫をして、その実現に努めていくことが肝要であると思っています。小川議員から格調高いご質問をいただいたところであり、その趣旨を十分にかみしめながら、私も精いっぱい頑張っていきたいと存じます。

若者に望むこと

小川　次に、二十一世紀を生きる若者に望むことについてお尋ねします。

かつてわが国は、礼節の国であり、恥の文化でした。しかし、今日、街中や電車で見かける若者は、人目もはばからず車中で化粧や飲食をし、所構わず座り込む「ジベタリアン」など、その生態は目に余るものがあります。

近ごろの若者は、という嘆きは四千年前のピラミッド建設現場にも落書きがあったということですが、それにしても昨今の日本の若者の現状をひど過ぎると感じているのは、私一人ではないと思います。戦後、国民が一丸となって必死に汗した結果として、今日の繁栄があるにもかかわらず、その豊かさの代償として生きることの苦労を知らない若者群を生み出したとすれば、極めて残念でなりません。

私は昨年、有志数人とともにラオスの高校生十人を日本に招へいしました。日本を理解してほしい、さらには近い将来、ラオスを背負って立つ人材に育ってほしいという、われわれの期待があったからです。世界最貧国のラオスの高校生は、最も尊敬する日本に行けることにわが身を疑ったそうです。着ているものも食べるものも、日本のそれとは比べようもありませんでしたが、自分たちの文化に対する誇りと祖国の発展を担おうとする高い志はさわやかで頼もしく、われわれに感動を与え、ラオスの明るい未来が見えてくるような思いでした。

わが国でも、明治の日本は見事な国でした。明治維新から戦後の復興期には、燃えるような目をした若い群像が渾身の努力を重ね、汗を流す姿があったはずです。現代の若者にも、社会の担い手として自覚と意欲を持ち、わが国の将来を背負って立ってほしいと願うものです。知事も、昨年の暮れには大勢の若者とともに船で中国を訪れたとのことですが前途有望な若者たちとまさに寝食をともにし、彼らと本音で話をしたことでしょう。その中で知事は、若者に何を伝え、そこから何を感じたのか、そして、それをどう二十一世紀を担う人づくりに生かそうとしているのか、ご所見を伺います。

橋本知事　私は新世紀いばらき青年の船に乗船し、多くの若者と五日間寝食をともにしてきました。私は、船内での講話や自由時間の語らいの中で、大きな可能性を秘めた本県の素晴らしさや、少年時代をはじめとする私の経験、さらには元気を出して前向きに生きること、たくさんの人と触れ合う機会を待つことの大切さなどを話しますとともに、若者の率直な意見を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができたところです。

今の若者は、社会の担い手としての自覚や意欲に欠けていると言われており、参加した青年たちも、初めのうちは他人任せで余り主体性を感じることはできませんでした。しかし、船内で研修を重ねる中で、中国での交流会等の企画・運営に進んで参加し、年齢や職業を超えて交流の輪を広げるなど、日を追うごとに成長していく姿を目の当たりにし、頼もしく感じたところです。

一方、多くの若者は、まさに今、小川議員が嘆かれたような状況にあるのも事実です。明治維新やラオスのように、自分たちでこれから国をつくるという大きな目的や夢を持てる時代環境にないという意味で、今の若い者は気の毒なのかもしれません。しかし、成熟した豊かな社会に満足していたのでは、社会の進歩はあるはずがないのです。欧米諸国にいったんは追いついたかに見えた経済ですら、今やまた大きく引き離されつつあるかに感じられます。また、道徳や教育といった面での現状も大変心配される状況にあります。

私は、若者たちに夢を持ってもらうためにも、社会人としての自覚を育てるためにも、教育が極めて大切であると感じています。子供の時にお手伝いや自然体験をした経験のある子ほど、正義感や道徳心は強いそうです。そのため、お手伝いボランティア事業や社会体験事業、子ども生き生き自然体験事業などを実施し、社会人としての責任感や道徳心を育てていきたいと考えています。

また、夢を持ってもらうためには、自らから学び、自らから考える力を育てること、すなわち自発性を持たせるための教育が大変重要であり、その中から若者自身が将来の目標を見つけていってくれるものと考えています。幸い、茨城県は、大都会とは違い、新しい地域づくりをしていく喜びをまだまだ感じることができる、夢あふれる県です。青年の皆さん自身がこのキャンバスに大きな夢を描き、その実現に向けて努力していってくれることを強く期待しています。

私は今、若者の現状を憂えると同時に、日本の将来についても大変心配しているところです。

少子化が進み、多くの地域で子供たちが切磋琢磨し合い、鍛え合うことも少なくなってしまいました。学校完全週五日制や新学習指導要領が実施される今が大変重要な時期であると考えています。そのため、来年度の予算でも教育予算や少子化対策には特に配慮したつもりですが、今後とも、しっかりした日本人の育成のために全力で努力していきたいと考えています。

小川一成氏（守谷市選出）が一般質問

夢実現の努力を期待 社会の担い手 自覚と意欲が不可欠

道路行政 都市軸道路 利根川橋梁

小川　次に、道路行政について土木部長にお尋ねします。

まず、守谷市から柏市に向かって整備が進められている都市軸道路利根川橋梁の整備見通しについてです。

この道路は、沿線開発地区の谷和原村、伊奈町、守谷市を通り、その後、利根川を渡り、最終的には埼玉県三郷市に至る広域的な道路です。そしてまた、つくばエクスプレスの沿線開発を支援する重要な幹線道路でもあります。現在、伊奈谷和原丘陵地から守谷市の間において整備が進められており、利根川橋梁についても鉄道と一体となって下部工事が行われており知れないものがあります。

利根川の橋梁工事は、その延長も長いことから事業費も莫大であり、かつ整備期間も長くなることが想定されます。しかし、昨年九月、地元市町村長からも、整備促進とあわせ無料化の要望が出されていますが、私も、できるだけ短期間でその整備を推進すると同時に、現在、守谷市民の生活道路として新大利根有料道路がありますが、さらに守谷に新たな有料道路を造るのは、地元住民にとって過大な負担であり、当然、この工事は無料化を前提に進めるべきと考えます。

そこで、都市軸道路の利根川橋梁の整備見通しについてお尋ねします。

橋本知事　私は新世紀いばらき青年の船に乗船し、現地での工事が進むのを見て、地元の守谷地区住民も早期の開通を強く期待しています。県では昨今、大変厳しい財政状況にありますが、この利根川橋梁の整備効果は、県南地域の交通混雑の緩和と地域の発展に計り知れないものがあります。

事業費確保が最大の課題 早期の具体化めざす

島田土木部長　都市軸道路は、平成十七年度開業予定のつくばエクスプレスに合わせ、現在、伊奈谷和原丘陵部から守谷市の県道取手豊岡線までの約八・四キロの区間について重点的に整備を進めています。

この先の利根川橋梁については、鉄道と道路の橋脚が一体構造となる利根川本流部の工事を、現在、鉄道と同時に実施しています。議員ご指摘のとおり、この都市軸道路が広域的な幹線道路としてその機能を発揮するためには、千葉方面と直結させることが最も重要ですから、現在、利根川橋梁の本格的な事業化に向けて千葉県と協議を進めているところです。

特に、この橋梁は、利根川本流部はもとより、両岸に広がる調整池も高架で渡ることとなり、全体延長が約三キロと大規模になるものと見込まれることから、膨大な事業費の確保が最大の課題となっています。このため、今後、事業の推進が最大限に図られるよう、有料道路制度も視野に入れ、事業方策の検討を進め、早期の具体化を目指していきたいと考えています。

小川　都市軸道路利根川橋梁の整備見通しについて、有料道路制度も視野に入れてとの答弁がありましたが、守谷市民にとっては、利根川を渡る橋はまさに生活道路そのものです。このため、二つの橋が同時に有料道路になれば、これまで以上に守谷市民に過大な負担を求めることになります。再度、土木部長のご所見をお伺いします。

島田土木部長　議員ご指摘のように、県としても住民への過大な負担は避ける必要があると考えています。従って、二つの橋梁が同時に有料道路となることがないように今後配慮していきます。

乙子交差点

小川　次に、国道294号乙子交差点の整備見通しについてです。

国道294号は、県南から県西の主要都市、取手、水海道、下館を経由して千葉県と福島県を結ぶ経済産業の大動脈となっており、地域振興と広域連携に不可欠な幹線道路です。現在、下館市や水海道市の一部区間が四車線化され、守谷市内でも早期四車線化を期待しています。しかし、特に混雑の激しい乙子交差点は、常総線の踏切もあり、県の主要渋滞ポイントの一つに数えられています。この付近の道路事業用地の取得については、沿線地権者のご協力と土木事務所、地元守谷市の尽力により大分進展が見られますが、守谷市をはじめ近隣の市町村では、一日も早い工事の着工を待ち望んでいます。

立体交差化へ向け 施工計画を検討中

そこで、国道294号乙子交差点の整備見通しについてお尋ねします。

島田土木部長　現在、国道294号の守谷市内での交通量は一日当たり約二万三千台と大変多いことから、主要な交差点では慢性的な交通渋滞が生じており、中でも乙子交差点は、関東鉄道常総線の踏切が近接していることから、朝夕の交通渋滞が特に激しい状況にあります。このため、渋滞の解消を目的として、取手市戸頭地内から守谷市守谷地内までの約五キロの区間について四車線化の工事を進めており、これまでに約二・七キロを整備したところです。

乙子交差点については、円滑な交通を確保するため、四車線化に合わせ鉄道を含めた立体交差化を計画しています。これまで用地買収を進めてきており、現在、工事着手に向けて、鉄道の架線の設置について関係機関との協議、調整を進めるとともに、多くの通行車両の安全を確保しながら工事を実施することとなるため、う回路の確保など施工計画を検討しているところです。今後とも、残る用地取得に努め、早期に立体化工事に着手できるよう事業の推進を図っていきます。

持論や提言を交えながら論戦を展開した小川氏。後方は鬼沢議長（当時）

「県民の立場で活動を」

警察行政 本部長の哲学

小川　次に、警察行政についてお伺いします。

まず、永井警察本部長の警察運営における哲学についてです。

本部長は、一月十八日に着任してわずか一カ月半ですが、着任早々の総和の殺人事件にはすぐに現場に足を運び、ご自身の信条である現場主義に徹するということを身をもって示していました。警察活動にとって現場はすべての原点である、現場を踏まえて方策を考え、知恵をどれだけ絞るかで勝負が決まる。現場から沸き上がるイマジネーションを大切にしろ、捜査の基本である聞き込みや尾行、張り込みを徹底しろ、が口癖になっていると話していました。

前任地の石川県の本部長時代には、県警の指揮官として多くの名言を残していました。幾つか紹介をしてみたいと思います。

その一、指揮官たるものは目標をはっきり明示して、自らを限界に追い込む姿勢が大切である。

永井本部長は、石川県警本部長着任記者会見で、県民に対し目に見える形で成果を示すということを約束しました。こうしたことを約束するということは、自らにプレッシャーをかけ、相当な重荷を背負うことであります。警察の独り善がりの政策では、県民の理解と協力が得られず、警察業務は決していい方向には進みません。警察の常識が世間の非常識であってはならないと考えています。

そのほか、私は、警察運営、組織管理の基本的な考え方として、使命感を待って仕事をすること、やりがいと生きがいを持って組織、職場環境づくりに努めることの二点を強調しています。

本県は、年々増加をする犯罪や多発する交通死亡事故などの諸問題が山積しています。私は、部下職員に仕事に対する使命感と情熱を与え、やりがい、生きがい、充実感を持って、一緒になって、これらの難問を乗り越えていく所存ですので、どうぞご支援をよろしくお願いします。

その二、指揮官たるものは常に組織の士気の高揚に細心の配慮をすべきである。

人生意気に感じて仕事をしてくれる人、死に物狂いで仕事をしてくれる人を何人つくるかで組織の強さが決まる。さらには、警察の常識は世間の非常識であってはならない。警察が犯罪を何件検挙したなどというのは、警察の独り善がりの自己満足にすぎない。世間は被害品が戻ってきたか否かで評価するなど、当たり前のことを県民の側に立って、見事に分かりやすい言葉で語っていました。まさに、私もその通りだと思います。

その上で、本部長は、私は歴任ポスト、ポスト、司、司で足跡を残し、後輩に誇れる財産を残す。給料分以上の仕事をしてくれ、天下国家に貢しをつくり、さわやかに任地を去っていく、そんな指揮官になりたい、と結んでいました。私は、そのような人生の生きざまに共感を覚える者の一人として、永井本部長に警察運営の哲学をお伺いします。

永井警察本部長　私は就任に当たり、全警察職員に対し、県民の立場に立った警察活動を推進することを指示したところです。近代警察の基礎を確立しました川路大警視は、警察活動の本質は、あらかじめ手だてを講じ、事が起きないようにすることにあると説き、犯罪の未然防止が警察本来の作用であり、警察活動の原点であるとしています。今日の警察でも、その原点に立つことが大切であり、そのためには、国民各層からの警察に対する強力な支援が不可欠であると考えています。それらの協力を得るためには、県民の要望を的確にくみ上げて、その成果を目に見える形で示すことが必要であるとに思います。警察の独り善がりの政策では、県民の理解と協力が得られず、警察業務は決していい方向には進みません。警察の常識が世間の非常識であってはならないと考えています。

そのほか、私は、警察運営、組織管理の基本的な考え方として、使命感を待って仕事をすること、やりがいと生きがいを持って組織、職場環境づくりに努めることの二点を強調しています。

本県は、年々増加をする犯罪や多発する交通死亡事故などの諸問題が山積しています。私は、部下職員に仕事に対する使命感と情熱を与え、やりがい、生きがい、充実感を持って、一緒になって、これらの難問を乗り越えていく所存ですので、どうぞご支援をよろしくお願いします